

平成25年度

病害虫情報(第1号)4月予報

平成25年3月29日
神奈川県農業技術センター所長

【内容】

- I 4月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 …… 1
- II 防除情報(1) 2013年の果樹加害性カメムシ類発生予想 …… 9
防除情報(2) 県内冬春トマト(2012年)栽培ハウスより採取した灰色かび病菌の各種薬剤に対する感受性 …… 10
防除情報(3) 県内ナシ栽培ほ場(2012年)より採取したハダニ類の各種薬剤に対する感受性 …… 11
- III 4月の病害虫発生予報の内容とその根拠 …… 13
- IV 4月の気象予報及び気象の経過 …… 16

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
 テレホンサービス TEL 0463-58-6612
 インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

農薬を使用する際は、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する必要があります。関係機関にご相談ください。

I 4月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [発生・防除時期] ———— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←——→ 防除適期

* 農薬に関する情報は、平成25年3月27日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				4月			5月		
				上	中	下	上		
イチネ	ばか苗病	—	○				は種	塗沫処理(30ml/乾燥糶1kg) (予・治)テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍 (予・治)ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍 種子浸漬(24時間浸漬) (予・治)テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治)ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 等	・イネシנגアレセンチュウの防除のため、スミチオンは必ず加える。 ・もみ枯細菌病が心配される場合は、テクリードCを使用する。 ・種子消毒で使用した薬剤の廃液は、適正に処理する。
	いもち病	—	○				←——→		
イチネ	イネシングレセンチュウ	—	○				種子消毒		
	苗立枯病	—	○				←——→	(予・治)タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6~8g/箱 + (予)ダコニール粉剤 [は種前,1回] 15~20g/箱 等	
コムギ	赤かび病	—	○				←——→ (開花期)	(予・治)トップジンM水和剤 [14日,3回(出穂期以降は2回)] 1,000~1,500倍 (予・治)ベルコート水和剤 [21日,3回(出穂期以降は1回)] 1,000~2,000倍 等	・出穂期から曇天多雨で温暖な天候が続く場合は、開花期を重点に防除する。

病害虫情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				4月			5月		
				上	中	下	上		
カンキツ	かいよう病 (中晩柑類)	やや少	○	←-----→ (発芽直後)		←-----→ (春梢伸長期)		(予)コサイド3000 [生育期, -] 2,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 (予)ICボルドー66D [-, -] 25~200倍 等	・春葉の適期防除により、病原細菌の園内密度が上がらないようにすることが重要。 ・ICボルドー66Dには、アピオン-E (500~1,000倍)を加用すること。 ・近年温州みかんでの被害が見られるので、発生園では防除を心掛ける。
	そうか病	やや多	○	←-----→ (発芽直後)				(予)デランフロアブル [30日, 3回] 1,000倍 等	・前年発生したほ場では、 新芽が出そろった時期 に必ず予防散布をする。 ・デランはかぶれに注意する。
ナシ	生育	早		《開花期》				<生育調査：農業技術センター・豊水>	
	赤星病	時期：早	○	←-----→ (ピヤクシン類冬孢子堆)		←-----→		開花前 (降雨前に予防剤を散布する。) (予)トレノックス 又は チオノックフロアブル [30日, 5回] 500倍 落花期 (予・治)スコア顆粒水和剤 [14日, 3回] 4,000倍 (予・治)インダーフロアブル [7日, 3回] 赤星病：8,000~12,000倍 黒星病：5,000~12,000倍 等	・赤星病の詳しい感染状況は下記のテレフォンサービスや当所ホームページの情報を参考にして、降雨前の散布を心掛ける。 0463-58-6612 3月下旬~4月下旬
	黒星病	やや多	○	←-----→ (花そう基部病斑)		←-----→ (葉・幼果)			・黒星病の花そう基部発病部は、見つけ次第取り除く。
ウメ	かいよう病	-	○	←-----→		~~~~~		(予・治)マイコシールド [21日, 4回] 1,500倍 等	・多発園では、強風雨時に感染するので降雨前の散布を心掛ける。
	黒星病	-	○	←-----→		~~~~~		(予・治)トップジンM水和剤 [21日, 3回] 1,000~1,500倍 (予・治)ストロビードライフロアブル [7日, 3回] 2,000~3,000倍 等	
メ	アブラムシ類	-	○	~~~~~		~~~~~		アクタラ顆粒水溶剤 [7日, 2回] アブラムシ類：2,000~3,000倍 カメムシ類：2,000倍	・カメムシ類に関してはII防除情報(1)を参照。
	カメムシ類	少	△	~~~~~		~~~~~		スカウトフロアブル [前日, 3回] アブラムシ類：2,000~3,000倍 カメムシ類：2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 等	

病害虫情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				4月			5月		
				上	中	下	上		
チヤ	生育	やや早		≪萌芽期≫				<生育調査:農技セ北相地区事務所研究課・やぶきた>	
	カンザワ ハダニ	やや少	○	←————→			~~~~~	バロックフロアブル [14日,1回] 1,000~3,000倍 等	・発生に十分注意し、早めに防除する。
	チャハマキ チャノコカク モンハマキ	やや多	○	幼虫・蛹	成虫			ハマキコン-N [成虫発生初期~終期,-] 150~250本/10a 等	・ハマキコン-Nは、成虫の発生初期から使用すると防除効果が高い。
促成	ベと病	並	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予・治)ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治)アリエッティ水和剤 [前日,3回] 400~800倍 等	
	うどんこ病	やや多	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予・治)ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予)インプレッション水和剤 [発病前~発病初期,-] 500~1,000倍 (予・治)アフエットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等	
	灰色かび病 菌核病	並 -	○ ○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予)インプレッション水和剤 [発病前~発病初期,-] 灰色かび病: 500~1,000倍 (予)セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000~1,500倍 (予・治)アフエットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等	・セイビアー(1,000倍)は褐斑病にも適用あり。
ユウ	アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ (MYSV)	並	○	←————→	←————→	~~~~~	~~~~~	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] アザミウマ類: 2,000倍 アブラムシ類、コナジラミ類: 2,000~3,000倍 アフアーム乳剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ: 2,000倍 ボタニガードES [発生初期,-] アザミウマ類: 500~1,000倍 アブラムシ類: 1,000倍、コナジラミ類: 500倍 等	・アフアームはトマトハモグリバエにも適用あり。
	アブラムシ類 コナジラミ類	並	○						
	タバコ コナジラミ (CCYV)	やや多	○						

病害虫情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				4月			5月		
				上	中	下	上		
促成 トマト	灰色かび病 葉かび病	やや少 やや少	○ ○	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	(予)ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - : ダクト内投入] 灰色かび病 : 10~15g/10a/日 (予・治)アフエットフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 等	・アフエットはうどんこ病(2,000~4,000倍)にも適用あり。 ・ベルコートはうどんこ病、すすかび病にも適用あり。 ・ベルコートはイミノクタジン剤。ダイマジン、ダイアメリット等と同じ成分を含む。
	コナジラミ類 タバコ コナジラミ (TYLCV)	並	○	←-----→	←-----→	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	サンマイトフロアブル [前日, 2回] 1,000~1,500倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] 4,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 等	・サンマイトはトマトサビダニ(1,500倍)にも適用あり。 ・コルト、モスピランはアブラムシ類にも適用あり。 ・サンクリスタルはアブラムシ類・トマトサビダニ、ハダニ類・うどんこ病(300~600倍)にも適用あり。
	アザミウマ類	並	○	←-----→	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	ディアナSC [前日, 2回] 2,500倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 等	・ディアナはコナジラミ類、ハモグリバエ類(2,500~5,000倍)にも適用あり。
【マルハナバチへの影響】 ・農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。 ・影響のある剤 : アフエット(不明)、コルト(セイヨウオオマルハナバチ:3日、マルハナバチ:7日)、モスピラン(1日)、ディアナ(1日)									
促成 イチゴ	灰色かび病 うどんこ病	やや少 並	○ ○	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	~~~~~ ←-----→	(予)インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, -] 灰色かび病 : 500~1,000倍 うどんこ病 : 2,000倍 (予)セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 灰色かび病 : 1,000~1,500倍 (予・治)アフエットフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日(生育期), 2回] 灰色かび病 : 2,000倍 うどんこ病 : 2,000~4,000倍 (治)サンクリスタル乳剤 [前日, -] うどんこ病 : 300~600倍 等	・ベルコートはイミノクタジン剤。ダイマジン、ファンベル等と同じ成分を含む。

病害虫情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				4月			5月		
				上	中	下	上		
促成	アブラムシ類	並	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	サンクリスタル乳剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類：300倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類：5,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類：5,000倍 カスケード乳剤 [前日, 3回] ミカンキイロアザミウマ：4,000倍 等	
	コナジラミ類			←→	←→	←→			
	オンシツコナジラミ	やや少	△						
	タバココナジラミ	やや少	△						
アザミウマ類	やや少	△							
イチゴ	ハダニ類	やや少	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	ダニサラバフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 コロマイト水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300~600倍 等	・コロマイトはシクラメンホコリダニにも適用あり。
				←→	←→	←→			
				【ミツバチへの影響】 ・農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。 ・影響のある剤：アフェット(1日)、スピノエース(2日)、コロマイト(1日)					
								【ミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響】 ・スピノエース、コロマイトは影響あり ・サンクリスタルは多少影響あり	
春キャベツ	灰色かび病 (横須賀三浦) (横浜・藤沢)	やや少 並	○ ○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	発病株は、見つけ次第早めに除去する。 (予)セイビアーフロアブル20 [3日, 3回] 1,000倍 (予・治)ロブラール水和剤 [7日, 4回] 1,000倍 (予・治)カンタスドライフロアブル [7日, 2回] 1,500倍 等	・雨天が多い場合には予防に努め、発病株は早期に、ほ場外で処分する。 ・セイビアーは株腐病にも適用あり。
	菌核病 (横須賀三浦) (横浜・藤沢)	やや多 並	○ ○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~		
	コナガ	少	△	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~		
				←→	←→	←→	←→	スピノエース顆粒水和剤 [3日, 3回] 2,500~5,000倍 トルネードフロアブル [7日, 2回] 1,000~2,000倍 フローバックDF [発生初期(但し、前日), -] 1,000~2,000倍 等	・スピノエース(5,000倍)はアザミウマ類にも適用あり。

病害虫情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				4月			5月		
				上	中	下	上		
露 地 ト マ ト	コナジラミ類 (TYLCV)	—	○		(育 苗)			【育苗期：粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期, 1回：株元処理] コナジラミ類：1～2g/株、アブラムシ類：1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期, 1回：株元散布] コナジラミ類：1～2g/株 【定植時：粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時, 1回：植穴土壌混和] コナジラミ類、アブラムシ類：1～2g/株 モスピラン粒剤 [定植時, 1回：植穴土壌混和] コナジラミ類、アブラムシ類：1g/株 【育苗期～定植後：散布】 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類：1,000～2,000倍 アザミウマ類：1,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] コナジラミ類：4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類、アブラムシ類：300倍 等	・害虫によるウイルス病感染を防ぐため、 苗は0.4mm目合防虫ネットで被覆する。 ・アルバリン、スタークルはハモグリバエ 類、アブラムシ類(1g/株)にも適用あり。 ・モスピランはトマトハモグリバエにも適 用あり。 ・コルトはアブラムシ類にも適用あり。 ・サンクリスタルはトマトサビダニ、ハダ ニ類・うどんこ病(300～600倍)にも適用あり。
	アブラムシ類 (CMV)	—	○	←					
	アザミウマ類 (TSWV)	—	○			(定 植)	→		

病害虫情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				4月			5月		
				上	中	下	上		
露 地 キ ユ ウ リ	アザミウマ類 (MYSV)	—	○		(育 苗)			【育苗期：粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期, 1回：株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類：1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期, 1回：株元散布] アブラムシ類：1g/株、コナジラミ類：1～2g/株 【定植時：粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時, 1回：植穴又は株元土壌混和] アブラムシ類、ミナキイロアザミウマ：1～2g/株 [定植時, 1回：植穴土壌混和] コナジラミ類：2g/株 モスピラン粒剤 [定植時, 1回：株元散布] アブラムシ類：0.5～1g/株 【育苗期～定植後：散布】 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類、 ミナキイロアザミウマ：1,000～2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類：4,000倍 等	・害虫によるウイルス病感染を防ぐため、 苗は0.4mm目合防虫ネットで被覆する。 ・アルバリン、スタークルはハモグリバエ 類(2g/株)にも適用あり。
	アブラムシ類 (CMV)	—	○	←					
	コナジラミ類 (CCYV)	—	○			(定 植) →			

病害虫情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				4月			5月		
				上	中	下	上		
ナス	アザミウマ類	—	○					【育苗期：粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期後半, 1回：株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類：1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期, 1回：株元散布] アブラムシ類：1g/株、コナジラミ類：1～2g/株 【定植時：粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時, 1回：植穴又は株元土壌混和] アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ：1～2g/株 ダントツ粒剤 [定植時, 1回：植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類：1g/株 【育苗期～定植後：散布】 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類、 ミナミキイロアザミウマ：1,000～2,000倍 ウララDF [前日, 3回] アブラムシ類：2,000～4,000倍 コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ：2,000倍 等	・アルバリン、スタークルはハモグリバエ類(2g/株)にも適用あり。 ・ダントツはマメハモグリバエにも適用あり。
	アブラムシ類	—	○	(育	苗)				
	コナジラミ類	—	○			(定	植)		

Ⅱ 防除情報(1) 2013年の果樹加害性カメムシ類発生予想

7月までは少発生、夏以降は追加情報に注意！！

● 主なカメムシは成虫で越冬し、春から夏にかけて果樹を加害するのは、この前年からの越冬成虫です。

● チャバネアオカメムシは、木漏れ日のちらちら差し込む斜面の広葉樹の落ち葉の下で越冬します。越冬数の年次変化は図1のとおりで、今年は1991年の調査開始以来もっとも少なくなっています。

● ツヤアオカメムシは、常緑広葉樹の樹冠内の葉の込み合った部分で越冬しますが、今年はほとんど見られず、2年ぶりに少ない越冬数です。

◎ 一般に越冬数が少ない年は7月までの防除は不要で、カメムシ類の絶対量が少ないため被害を受けても摘果で対応できると考えられます。以下の防除のポイントを参考にして下さい。

今年、果樹カメムシ類の本来の餌であるスギ、ヒノキなどの球果量が多くなると予想されます。このような場合、8月以降の新生代成虫の果樹園への飛来量は多くなりますが、飛来時期は遅くなることが予想されます。なお、新世代成虫の発生については、夏以降の気象、スギ・ヒノキの球果量や劣化具合で変化しますので、その時期の予察情報を参考にして下さい。

インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>
 テレホンサービス 0463-58-6612

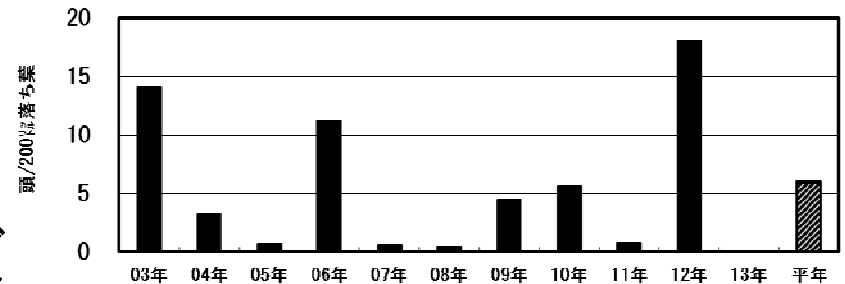


図1 チャバネアオカメムシの落葉内越冬量

防除のポイント

☆越冬成虫が少ない年は、7月までの防除は他の害虫との同時防除で対応できます。また、絶対量が少ないため、被害があっても摘果で対応できます。

☆今年のようにカメムシの発生が少ないと予想される年は、今までの防除により減少した土着天敵類の保護に努め、合成ピレスロイド剤や残効の長いネオニコチノイド剤の使用はひかえましょう。

☆カメムシは園外から飛んでくるため、農業散布だけでは防除し難いことを念頭に、物理的な防除法（防虫ネットの設置、袋掛けの実施など）と組み合わせた防除対策を行いましょう。

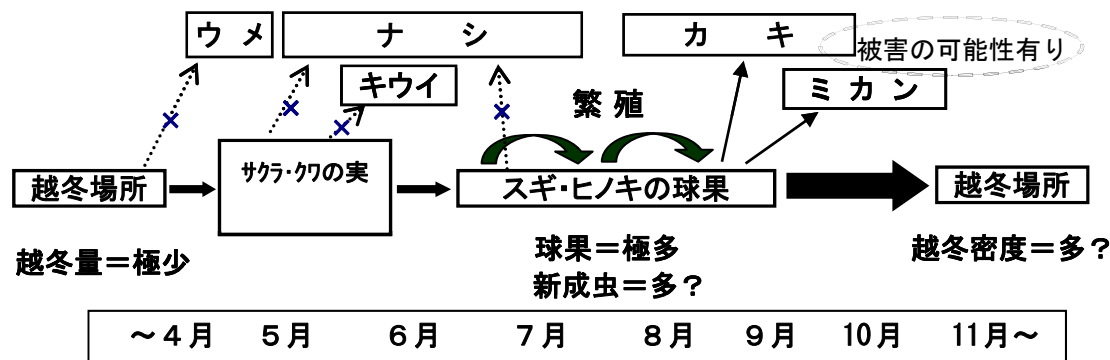


図2 2013年の果樹加害性カメムシ類の発生予想

II 防除情報(2) 県内冬春トマト(2012年)栽培ハウスより採取した

灰色かび病菌の各種薬剤に対する感受性

インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>
 テレホンサービス 0463-58-6612

冬春トマト栽培ハウスより採取(2012年4~5月)した灰色かび病菌について、ベノミル(ベンゾイミダゾール系①)、プロシミドン(ジカルボキシイミド系②)、ジェットフェンカルブ(N-フェニルカーバメート系③)、フルジオキソニル(フェニルピロール系④)に対する薬剤感受性を調査し(表1)県内灰色かび病菌薬剤感受性の傾向と各系統薬剤の防除効果について検討しました。

一感受性の傾向と各系統薬剤防除効果の考え方

①ベンゾイミダゾール系薬剤(ベンレート、トップジンM、ゲッター<①③系混合>等)、

多くの場合、防除効果が期待できないと考えられる。使用する場合は、防除効果の確認を必ず実施する。

②ジカルボキシイミド系

(スミレックス、ロブラール、スミブレンド<②③系混合>等)

施設毎に防除効果が異なると考えられる。使用する場合は、連用を避け、防除効果の低下が認められたら使用を控える。

③N-フェニルカーバメート系薬剤

(ゲッター<①③系混合>、スミブレンド<②③系混合>等)

単独での使用では、防除効果が低下傾向にあると考えられる。使用する場合は、ローテーション防除の一剤として使用し、連用を避け、防除効果の低下が認められたら使用を控える。

④フェニルピロール系薬剤(セイビアー)

防除効果は高いと考えられるが、今後の薬剤耐性発達阻止の観点から、ローテーション防除の一剤として使用する。

※上記①~④にかかわらず、トマト灰色かび病の防除対策として次の事項を実践する。

- (1) こまめな換気による過湿防止、発病葉や果実の早期除去など耕種的防除に努める。
- (2) 株間が狭い場合や作物が軟弱徒長気味に生育すると発病し易くなるので注意する。
- (3) 予防剤を有効活用した初期防除の徹底に努める。
- (4) 発病が蔓延してからの薬剤散布は、耐性菌の出現を招きやすいので注意する。
- (5) 耐性菌の発生を最小限にするために、系統の異なる数種の薬剤のローテーション散布を基本とする。

表1 県内冬春トマト(2012年)栽培ハウスより採取した灰色かび病菌の各種薬剤に対する感受性

採取地点	採取時期	分離菌株数	供試薬剤ごとの程度別耐性菌割合(%)									
			ベノミル		プロシミドン		ジェットフェンカルブ※				フルジオキソニル	
			中等度	高度	中等度	高度	評価法1		評価法2		感受性	耐性
川崎市1	5月	6	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	83.3	0.0	100.0	0.0
横浜市1	4月	6	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
	5月	5	0.0	100.0	80.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
横浜市2	5月	9	0.0	77.8	11.1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
横浜市3	5月	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
藤沢市1	5月	1	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
藤沢市2	5月	7	0.0	100.0	71.4	0.0	14.3	85.7	100.0	0.0	100.0	0.0
藤沢市3	5月	3	0.0	100.0	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	33.3	100.0	0.0
藤沢市4	4月	1	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
	5月	5	0.0	100.0	100.0	0.0	20.0	80.0	100.0	0.0	100.0	0.0
茅ヶ崎市1	5月	3	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
茅ヶ崎市2	5月	5	0.0	100.0	20.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
平塚市1	5月	12	0.0	100.0	66.7	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
厚木市1	5月	6	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
伊勢原市1	5月	7	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
海老名市1	5月	5	0.0	100.0	60.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
海老名市2	5月	6	0.0	100.0	50.0	16.7	0.0	100.0	66.7	33.3	100.0	0.0
2012年平均		90	0.0	97.8	53.3	1.1	2.3	97.7	92.0	3.4	100.0	0.0

(試験概要) 菌株の分離および耐性菌判定は「植物病原菌の薬剤感受性検定マニュアル(日本植物防疫協会, 1998, P. 28~33)に準じた。 ※ジェットフェンカルブは、ベノミル耐性菌(88菌株)に対し次の2つの評価法で耐性菌判定を実施した。評価法1: 菌そうディスク置床後48~144時間において、菌そう直径が6mmを超える菌株を生存菌株とする。評価法2: 菌そうディスク置床後48時間において、処理区菌そう直径が無処理区の50%以上生育した菌株を生存菌株とする。

II 防除情報(3) 県内ナシ栽培ほ場(2012年)より採取したハダニ類の

各種薬剤に対する感受性

インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

テレホンサービス 0463-58-6612

ナシ栽培ほ場より採取(2012年8~9月)したナミハダニ、カンザワハダニについて、各種殺ダニ剤に対する薬剤感受性を調査し(表1, 2)、県内ハダニ類薬剤感受性の傾向と各種薬剤の防除効果について検討しました。

一 感受性の傾向と各種薬剤防除効果の考え方

(1) コロマイト水和剤

一部で卵に対する感受性低下が認められるが、現時点では限定的であり、殺成虫、殺卵による高い防除効果が概ね期待できると考えられる。

(2) コテツフロアブル

一部で成虫に対する感受性低下(希釈倍率3000倍)が認められるが、殺成虫、殺卵による高い防除効果が概ね期待できると考えられる。なお、殺成虫効果については、実用的効果発現に48~72時間程度を要する傾向にあるので、使用後の防除効果判定時期には注意が必要である。

(3) カネマイトフロアブル

殺成虫、殺卵による高い防除効果が期待できると考えられる。

(4) ダニサラバフロアブル

卵、成虫に対する感受性低下が認められる。使用にあたっては、発生初期での使用を心がける、複数回使用・連用を避けるなどの考慮が必要である。また、使用後の防除効果確認を強く推奨する。

表1 ハダニ類メス成虫の各種薬剤に対する感受性

a) ナミハダニ		サンプル採取地別の補正死亡率(%) ²															
供試薬剤	希釈倍率(倍)	川崎市1(9月) ^y			川崎市2(9月)			小田原市1(9月)			大井町1(8月)			厚木市1(9月)			
		24時間	48時間	72時間	24時間	48時間	72時間	24時間	48時間	72時間	24時間	48時間	72時間	24時間	48時間	72時間	
コロマイト水和剤	2000	91.0	96.2	100.0	97.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
コテツフロアブル	2000	77.2	97.3	100.0	79.9	100.0	100.0	59.4	82.2	96.6	78.2	100.0	100.0	84.4	97.4	96.2	
	3000	—	—	—	35.9	81.7	94.5	0.0	10.2	30.8	62.5	81.9	96.9	45.9	92.7	100.0	
カネマイトフロアブル	1000	82.0	91.5	100.0	88.3	93.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	1500	—	—	—	87.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
ダニサラバフロアブル	1000	9.4	3.6	0.0	59.5	65.8	74.7	100.0	100.0	100.0	88.4	92.0	94.3	94.4	96.9	100.0	
	2000	—	—	—	55.0	62.7	69.5	100.0	100.0	100.0	85.8	94.5	96.9	100.0	100.0	100.0	
スターマイトフロアブル	2000	33.8	37.7	37.6	83.4	97.7	97.6	94.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.5	100.0	100.0	
マイトコーネフロアブル	1000	74.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	1500	—	—	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

b) カンザワハダニ		サンプル採取地別の補正死亡率(%) ²					
供試薬剤	希釈倍率(倍)	綾瀬市1(8月) ^y			伊勢原市1(9月)		
		24時間	48時間	72時間	24時間	48時間	72時間
コロマイト水和剤	2000	100.0	—	—	100.0	—	—
コテツフロアブル	2000	100.0	—	—	100.0	—	—
	3000	100.0	—	—	100.0	—	—
カネマイトフロアブル	1000	100.0	—	—	100.0	—	—
	1500	100.0	—	—	100.0	—	—
ダニサラバフロアブル	1000	100.0	—	—	100.0	—	—
	2000	100.0	—	—	100.0	—	—
スターマイトフロアブル	2000	100.0	—	—	100.0	—	—
マイトコーネフロアブル	1000	100.0	—	—	100.0	—	—
	1500	100.0	—	—	100.0	—	—

(試験概要)
 インゲンリーフディスク法、1区3連反復なし、展着剤としてアブローチBI(500μL/500mL、希釈倍率1000倍)加用、対照区は展着剤のみ加用を散布処理。成虫は処理24~72時間後の死亡個体および苦悶個体を死亡個体として計数。逃亡個体は試験個体数から除外した。
 なお、試験中のハダニ類は25℃、16時間明8時間暗条件下で保護した。

z) Abbottの補正式
 補正死亡率(%)
 = [(対照区生存虫率-処理区生存虫率) / 対照区生存虫率] × 100
 対照区は展着剤(アブローチBI 1000倍)のみ
 y) ()内はサンプル採取時期を示す
 x) 薬剤散布処理からの経過時間

※川崎市1は高温度処理のみ実施

(5) スターマイトフロアブル

一部で成虫に対する感受性低下が認められるが現時点では限定的であり、卵に対する感受性低下は認められないことから、殺成虫、殺卵による高い防除効果が概ね期待できると考えられる。使用にあたっては、発生初期での使用を心がける、前後に使用する殺ダニ剤の選択に注意するなどの考慮が必要である。また、使用後の防除効果確認を強く推奨する。

(6) マイトコーネフロアブル

一部で卵に対する感受性低下が認められるが現時点では限定的であり、成虫に対する感受性低下は認められないことから、殺成虫、殺卵による高い防除効果が概ね期待できると考えられる。使用にあたっては、発生初期での使用を心がけるなどの考慮が必要と考えられる。また、当該剤使用後の防除効果確認を強く推奨する。

(7) バロックフロアブル

ナミハダニ卵に対する感受性低下が認められる。一方、カンザワハダニ卵に対する感受性低下は認められなかったが、使用にあたっては、予備的な効果試験を実施したうえで使用することを強く推奨する。

(8) ダニゲッターフロアブル

殺卵による高い防除効果が期待できると考えられる。

(9) 上記(1)～(8)にかかわらず、ナシ栽培におけるハダニ類防除対策として以下を実践する。

- ・ 越冬期防除を積極的に行い、春以降の密度を低く維持するよう努める。
- ・ 同一薬剤の使用は年1回にとどめるとともに、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がける。また、防除効果確認を必ず行う。
- ・ ローテーションには物理的に殺ダニ活性を示す剤の採用を積極的に検討する。
- ・ 定期的な発生把握に努め、発生初期防除を心がける。

表2 ハダニ類卵の各種薬剤に対する感受性(薬剤処理7日後)

a) ナミハダニ

供試薬剤	希釈倍率(倍)	サンプル採取地別の補正死亡率(%) ^z				
		川崎市1(9月) ^y	川崎市2(9月)	小田原市1(9月)	大井町1(8月)	厚木市1(9月)
コロマイト水和剤	2000	94.4	100.0	100.0	100.0	100.0
コテツフロアブル	2000	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
カネマイトフロアブル	1000	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ダニサラバフロアブル	1000	81.9	100.0	100.0	100.0	100.0
スターマイトフロアブル	2000	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
マイトコーネフロアブル	1000	37.7	92.3	100.0	100.0	100.0
バロックフロアブル	2000	0.0	6.4	52.6	6.0	8.5
ダニゲッターフロアブル	2000	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

b) カンザワハダニ

供試薬剤	希釈倍率(倍)	サンプル採取地別の補正死亡率(%) ^z	
		綾瀬市1(8月) ^y	伊勢原市1(9月)
コロマイト水和剤	2000	100.0	100.0
コテツフロアブル	2000	100.0	100.0
カネマイトフロアブル	1000	100.0	100.0
ダニサラバフロアブル	1000	100.0	100.0
スターマイトフロアブル	2000	100.0	100.0
マイトコーネフロアブル	1000	99.1	100.0
バロックフロアブル	2000	100.0	100.0
ダニゲッターフロアブル	2000	100.0	100.0

(試験概要)
 インゲンリーフディスク法、1区3連反復なし、展着剤としてアブローチBI(希釈倍率1000倍)加用、対照区は展着剤のみ加用を散布処理。処理7日後の孵化個体を計数し、薬剤処理前産卵数との差で死亡卵を算出した。
 なお、試験中のハダニ類は25℃、16時間8時間暗条件下で保護した。

z) Abbottの補正式
 補正殺卵率(%)

$$= \frac{\{ \text{対照区孵化率} - \text{処理区孵化率} \}}{\text{対照区孵化率}} \times 100$$

対照区は展着剤(アブローチBI 1000倍)のみ

病虫害情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

Ⅲ 4月の病虫害発生予報の内容とその根拠

作物名 病虫害名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
カンキツ かいよう病 (中晩柑類)	少	やや少	1) 県予察ほでは、前年葉の越冬病斑は春枝では平年並(±)で、夏秋枝では平年よりやや少ない。(－) 2) 前年10月の発生は、平年より少なかった。(－) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
そうか病	少	やや多	1) 前年10月の発生は、平年より多かった。(＋) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほでは、発生は平年並。(±) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ナシ 赤星病 (感染時期)	－	早	1) ビヤクシン樹上における冬孢子堆の膨潤度は、3月28日で64.0であり平年より早い。 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
黒星病	少	やや多	1) 前年10月の発生は平年並であったが、6～9月の発生は平年より多く発生していた。(＋) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
果樹全般 カメムシ類	－	少	1) 前年における、ヒノキ球果上のチャバネアオカメムシ新世代成虫の捕獲数は平年より少なかった。(－) 2) 落葉内のチャバネアオカメムシ成虫の越冬数は、平年より少ない。(－) 3) カンキツ枝の叩き出し調査におけるツヤアオカメムシ越冬成虫数は、平均より少ない。(－) 4) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

作物名 病虫害名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
チャ カンザワハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ハマキムシ類	少	やや多	1) 前年秋の成虫発生量は、チャハマキ、チャノコカクモンハマキともに平年より少なかった。(－) 2) 巡回調査では、落下虫数が平年より多い。(＋) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
促成トマト 灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
葉かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ハモグリバエ類	少	やや少	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

病害虫情報

(H25・No.1)

神奈川県農業技術センター

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
促成キュウリ べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。 (+) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。 (+) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマともに寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
促成イチゴ 灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
アザミウマ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
促成イチゴ オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
タバココナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
ハダニ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
春キャベツ (横浜・藤沢地区) 灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
コナガ	少	少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 横浜のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

病害虫情報 (H25・No.1) 神奈川県農業技術センター

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
三 浦 半 島 地 区			
春キャベツ 灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
菌核病	少	やや多	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(三浦)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)
コナガ	少	少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温、降水量とも平年並の予報。(±)

(注) 「発生量」の表示 程 度：甚>多>中>少>無
 平年比：多>やや多>並>やや少>少
 「予報の根拠」 (＋)：多発要因 (－)：少発要因

Ⅳ 4月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部3月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

〈要素別予報〉

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	30%	40%	30%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	30%	40%	30%

*:3月22日の1か月予報による

〈気象の経過〉 [観測地 横浜地方気象台]

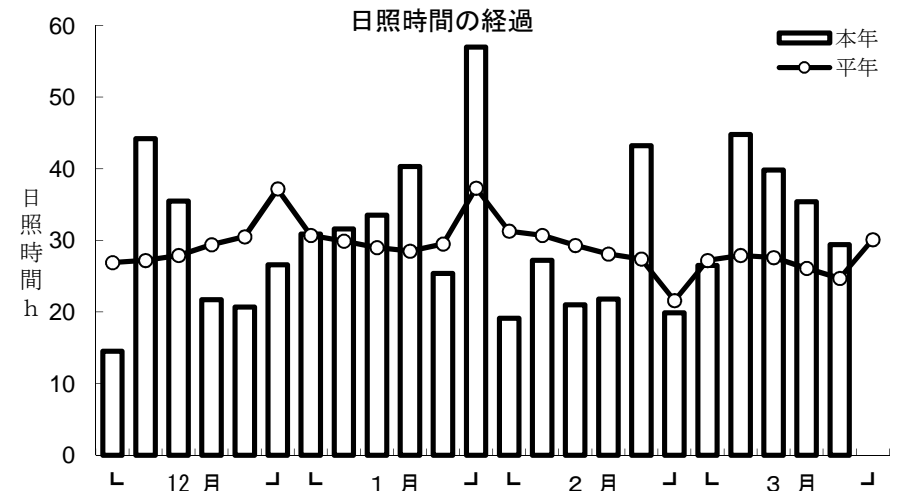
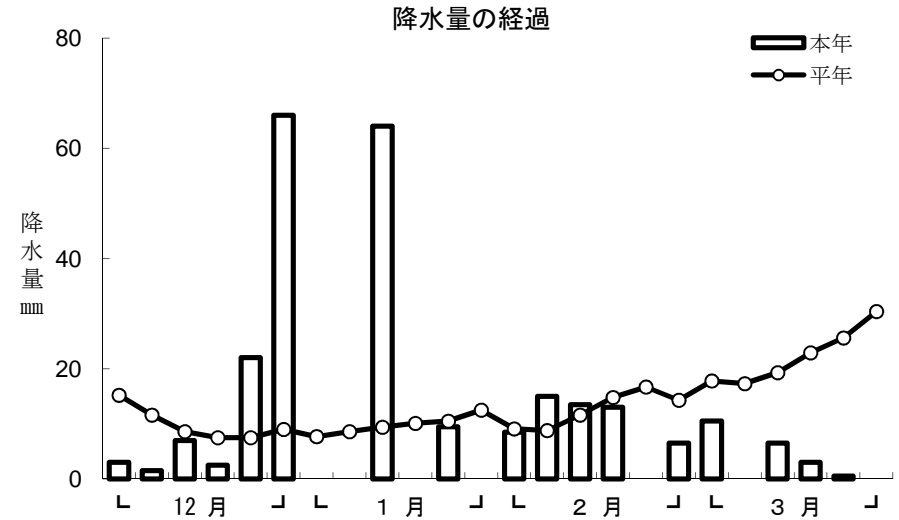
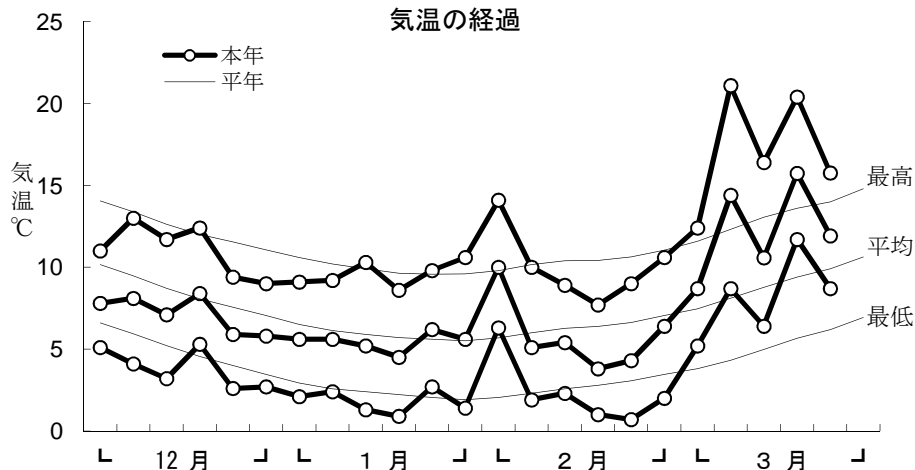
3月第5半旬まで

気温は、1～5半旬は平年より高かった。

降水量は、1～5半旬は平年より少なかった。

日照時間は、1, 5半旬は平年並、2～4半旬は平年より多かった。

*桜の開花日：3月18日（平年3月26日）、満開日：3月22日（平年4月3日）



病害虫発生予察注意報(第2号)

平成25年3月29日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：ヒメトビウンカ（縞葉枯病）

作物名：水稻

- 1 発生地域：県内全域
- 2 発生量：多
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 平成25年1月21日～31日にかけて、県内14地点の畦畔でヒメトビウンカの越冬密度を吹き出し法により調査した。その結果、越冬密度は13地点で前年より多かった。県内の越冬密度の平均126頭/9m²は平年の県内平均（19.8頭/9m²）に比べて多く、過去10年間で、最も高い値だった（図1、表1）。
- (2) イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率検定（ラテックス凝集反応法）の結果、定点における保毒虫率の平均は1.0%（平年0.6%）だった（図1、表2）。2地点において、1987年以来初の4.0%以上の保毒虫率が確認された（表2）。

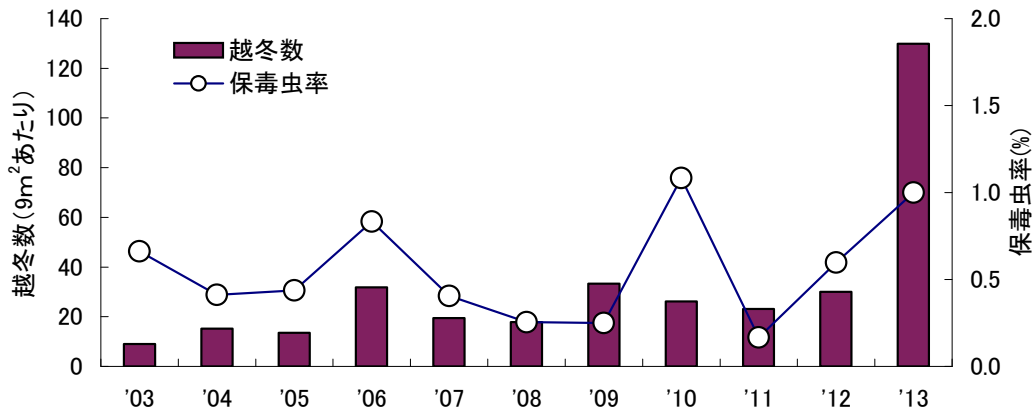


図1 ヒメトビウンカ越冬数と縞葉枯病ウイルスの保毒虫率

表1 ヒメトビウンカ越冬数調査結果^{注1)}

地点	ヒメトビウンカ			
	本年	前年	平年	
横浜 北八朔	18	11	0.8	
藤沢 大庭	10	3	13.3	
海老名 本郷	52	39	4.8	
平塚 広川	14	23	14.3	
	寺田縄	76	34	22.9
伊勢原 下谷	29	6	27.8	
	串橋	789	109	54.8
厚木 飯山	419	68	39.4	
	戸田	115	18	19.4
相模原 当麻	74	28	21.4	
小田原 栢山	39	8	6.8	
	桑原 ^{注2)}	66	44	16.2
南足柄 竹松	34	7	29.7	
開成 吉田島	29	23	5.9	
県平均	126	30	19.8	

注1)調査月日：2013.1.21-31

注2)'09年まで鬼柳

表2 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率検定結果

	保毒虫率(%) ^{注1)}			
	本年	前年	平年	
横浜 北八朔*)	4.0	—	—	
藤沢 大庭	0.0	2.1	0.6	
海老名 本郷	4.0	2.0	0.7	
相模原 当麻	0.7	0.0	0.5	
平塚 寺田縄	1.3	0.0	0.5	
伊勢原 下谷	0.0	0.0	0.4	
	串橋	0.7	0.7	0.5
厚木 飯山	0.7	0.0	0.5	
	三田**)	3.3	0.8	—
小田原 桑原 ^{注2)}	0.7	0.0	0.3	
南足柄 竹松**)	0.0	1.3	—	
	保毒虫率 ^(10年データがない地点は除く)	1.0	0.6	0.6
県平均	保毒虫率 ^(全調査地点)	1.4	0.7	—
均	越冬数	126.0	30.1	19.8
	縞葉枯病発生度(9月)		0.0	0.1

注1)調査検体数は各地点150頭調査。ただし、藤沢市大庭は'10年に125頭、'12年は142頭調査。

注2)'09年まで鬼柳 *)'13年のみ調査 **) '12年、'13年のみ調査

4 防除対策および防除上の注意事項

- (1) 初期の防除を徹底するために、ウンカ類に効果のある育苗箱薬剤を施用する。
- (2) 圃場の耕起や畦畔などの草刈を行い、ヒメトビウンカの密度低下を図る。
- (3) ツマグロヨコバイの越冬密度(82頭/9m²)も平年(53.8頭/9m²)よりやや多いため、育苗箱施薬にはツマグロヨコバイにも効果のある剤を使用する。

5 防除薬剤

本田での発生を抑えるために、育苗箱施薬による防除を必ず実施する。育苗箱施薬の農薬例を(表3)に示した。なお、農薬使用の際は、適用作物、使用量、使用濃度、使用時期、総使用回数をラベルの表示により必ず確認する。

表3 ヒメトビウンカに対する稲(箱育苗)施薬例

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
グランドオンコル粒剤	1箱当り50g	移植3日前～移植当日	1回
アドマイヤーCR箱粒剤	1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回
ルーチンアドスピノ箱粒剤	1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回
ツインターボフェルテラ箱粒剤	1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回

神奈川県農業技術センター
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレホンサービス0463-58-6612

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>